

2022年5月31日（火）

老球の細道671号

5月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

暦の上では新緑の清々しい時期であるはずだったが、新型コロナ、ウクライナ戦争、そして北朝鮮のミサイル挑戦とまだまだ落ち着かない日々が続く。安らぎは散歩中に見るツツジ、サツキ、アヤメなどの花々、磐梯山、そして運動公園で孫と遊ぶ爺タイム。

### 1・テレビ、映画から

◆「老いとは治療を望めない唯一の病気だ」〈BSNHK・映画『市民ケーン』〉：映画の世界的名作をテレビで再度観た。気づかなかった名シーンや名セリフが新たに発見できた。主人公の新聞王が放ったこのセリフは爺になった私だからこそ脳のアンテナがビビッとキャッチした。「治療を望めない病気」を今経験中。他の病は恐れる必要なし。華麗なるプレイはできないが、加齢なるプレイで勝負する。

◆「裏を見せて 表を見せて 散る紅葉」〈BS『武田鉄也・昭和は輝いていた』〉：江戸時代の僧、良寛の辞世の句。物事には裏と表がある。両方ありのままを見せてもっと自然に生きよと教える。表だけを見せようとして格好つける必要なし。武田鉄也の教養に脱帽。

### 2・読書から

◆「見るためには、別な見方で世界を見ることを学ばねばならんのだ」〈真木悠介著『気流の鳴る音』筑摩書房〉：4月に亡くなった社会学者見田宗介氏のペンネームによる著作本である。自分の枠内のことだけ知る、見ることの危惧を説いている。バスケットボール以外のことにも興味関心を持たないと、いずれバスケットの奥行きも狭まってくる。

◆「熟したテーマは向こうからやってくる」〈外山滋比古『思考の生理学』ちくま文庫〉：文豪パルザックの言葉である。文章のアイデアが浮かぶ場所「三上」がある。馬上、枕上（寢床）、厠上（トイレ）。また、浮かぶ時期「三中」もあるという。無我夢中、散歩中、入浴中。

### 3・新聞、パンフレット等から

◆「戦争が始まった。海で陸で野獣のように殺し合う。安全な場所にいる者が他人をそそのかして戦わせる」〈朝日：天声人語〉：日露戦争開戦間もない頃の文豪トルストイの反戦論である。まだまだウクライナ戦争は続いている。それに乗じて日本への侵略の不安を煽る空気も流れる。戦争は歴史を見ても明らか。始めるのは一部のエリート、死ぬのは下々の人々。

◆「選手を育てる上で一番大切なのは愛だ。愛なくして人は育たない」〈朝日：書評『砂まみれの名将』〉：日本のスポーツ指導者の中で最もリスペクトする一人である野村克也の言葉。「愛」は通常「好き」「恋しい」「愛する」と発展するが、コーチの「愛」はいかに現場で選手と多くの時間を過ごすかにかかっていると思う。

◆「絶対ないなんて、絶対はないのだと」〈朝日：日曜に想う〉：十数年前、韓国映画で物凄い高さの津波シーンを観た。こんなの絶対に来るわけないと思っていたら東日本大震災が来た。映画以上の津波が実家に来た。絶対に勝てないなんて、絶対はないと常に思う。